科目名	建築設計製図Ⅰ				
科目名(英)					
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	笠　真由美
実施年度	2023年度	実施時期	前期	担当者実務経験	
対象学科・学年	建築CAD科　1年				
授業概要	建築設計について基本的な考え方について学ぶ AutoCADの基本操作・各種設定・作図技術・印刷方法を学ぶ 用紙サイズ・尺度・寸法など製図知識について学ぶ 木造住宅の計画・各部分の名称・構造等について学ぶ				
授業形態	講義:　△	演習:　○	実習:	実技:	※　主たる形態:○　その他:△

学習目標（到達目標）

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
○	○	○			設計ツールの一つであるAutoCADについて学び、練習問題を作図することができる。
○	○	○			木造建築の一般図の種類と表現方法･内容が説明できる。
○	○	○			製図の基本に則して木造建築物の配置図及び平面図を作図することができる。
○	○	○			製図の基本に則して木造建築物の断面図及び立面図を作図することができる。
○	○	○			製図の基本に則して木造建築物の基礎伏図・床伏図を作図することができる。

テキスト・教材 参考図書

この1冊で全部わかる木造住宅秘伝のテクニック（エクスナレッジ）／オリジナルプリント

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1～6	【製図の基本を学ぶ】 建築計画・製図の基礎知識・コマンド練習	授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。
7～12	【木造住宅意匠図】 配置図兼1階平面図	授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。
13～16	【木造住宅意匠図】 2階平面図	平面図課題を印刷し提出して下さい。
17～18	【木造住宅意匠図】 屋根伏図	授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。
19～22	【木造住宅意匠図】 断面図	授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。
23～26	【木造住宅意匠図】 立面図	断面図・立面図課題を印刷し提出下さい。
27～28	【木造住宅構造図】 基礎伏図	授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。
29～30	【木造住宅構造図】 床伏図	授業後、繰返しの練習を推奨する。 基礎伏図・床伏図を印刷し提出下さい。

評価方法

(1) 作図スピードと課題の提出状況　(2) 作図の正確さ　以上の観点で下記の割合で図面を評価する。
成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
練習問題	○	◎	○			20%
配置図兼平面図	○	◎	○			20%
屋根伏図	○	◎	○			20%
断面図・立面図	○	◎	○			20%
基礎伏図・床伏図	○	◎	○			20%

履修上の注意

授業課題が未提出の者、出席が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を認めない

科目名	建築計画Ⅰ				
科目名(英)	Architectural planning　and design Ⅰ				
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	森行　美枝
実施年度	2023年度	実施時期	前期	担当者実務経験	建築設計事務所にて設計・監理業務担当
対象学科・学年	建築CAD科　1年				
授業概要	社会が変化する中、建築の担う役割は多様になっている。そのために過去、現在、未来、それぞれにどのような役割を建築が担ってきたか、あるいは担う可能性があるか、各自で思考を深める必要がある。例えば建築の歴史をふりかえり、現在の環境問題に建築がどのように貢献できるかを考察する。				
授業形態	講義:　○	演習:　△	実習:	実技:	※　主たる形態:○　その他:△

学習目標（到達目標）

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
○	○				建築計画とは何かを説明できる
○	○				既存の建築計画を調査・研究し、内容が説明できる。
○	○				戸建て住宅と集合住宅の特徴を説明できる。

テキスト・教材 参考図書

初学者の建築講座　建築計画（改訂版）、カラー版図説　建築の歴史　西洋・日本・近代　参考図書：建築ガイダンス初めて建築を学ぶ人のために、コンパクト建築設計資料集成、「新建築」等の建築雑誌

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1	シラバス説明、建築計画とは、	
2	住様式と住宅の変化	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
3	戸建て住宅　配置計画・平面の類型	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
4	戸建て住宅　各室の計画1	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
5	戸建て住宅　各室の計画2	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
6	戸建て住宅　各室の計画3・規模計画	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
7	戸建て住宅の計画1	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
8	戸建て住宅の計画2	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
9	中間テスト	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
10	集合住宅　団地計画	授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと
11	集合住宅　集合住宅の種類1	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
12	集合住宅　集合住宅の種類2	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
13	細部計画1	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
14	細部計画2	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
15	細部計画3	授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと

評価方法

(1)定期試験（筆記）を実施する。※60%以上取得すること
(2)小テスト　(3)宿題・レポート提出　提出状況　など次ぎの規準で評価する。
成績評価基準は、S（90点以上）・A（80点以上）・B（70点以上）・C（60点以上）・D（59点以下）とする。

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
定期試験	○	◎				80%
小テスト	○	◎				10%
宿題・レポート	○	◎				10%

履修上の注意

出席が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を認めない

科目名	建築計画Ⅱ				
科目名(英)	Architectural planning　and designⅡ				
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	森行　美枝
実施年度	2023年度	実施時期	前期	担当者実務経験	建築設計事務所にて設計・監理業務担当
対象学科・学年	建築CAD科　1年				
授業概要	主に建築計画の基本となる住宅について学ぶ。また建築を設計するうえで基本となるスケール感覚を身につけ、人間が生活する空間を学ぶ。以上の内容の概説に加え、個人またはグループに課題を出題し、調査や発表・講評等を実施。				
授業形態	講義:　○	演習:　△	実習:	実技:	※　主たる形態:○　その他:△

学習目標（到達目標）

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
○	○				幼稚園(保育所)　関する　歴史　変遷について説明が出来る。
○	○				学校建築に関する　歴史　変遷について説明が出来る。
○	○				外部空間に関する　歴史　変遷について説明が出来る。

テキスト・教材 参考図書

初学者の建築講座　建築計画(改訂版)、カラー版図説　建築の歴史　西洋・日本・近代

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1	3－1幼稚園(保育所)　幼稚園の変遷,幼稚園の計画1	
2	3－1幼稚園(保育所)　幼稚園の変遷,幼稚園の計画2　／西洋・日本建築史Ⅰ	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
3	3－1幼稚園(保育所)　各室計画／西洋・日本建築史Ⅱ	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
4	レポート課題①	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
5	3－2小学校・中学校　小学校・中学校の変遷／西洋・日本建築史Ⅲ	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
6	3－2小学校・中学校　学校の計画,校舎の計画／西洋・日本建築史Ⅳ	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
7	3－2小学校・中学校　新しい教育形態への対応／西洋・日本建築史Ⅴ	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
8	レポート課題②	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
9	7－1外部空間の把握　建築物と外部空間、外部空間の認識方法／西洋・日本建築史Ⅵ	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
10	7－2外部空間の把握　外部空間のスケール／西洋・日本建築史Ⅶ	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
11	レポート課題③	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
12	7－2外部空間の計画手法　都市の通過空間・都市の広場／西洋・日本建築史Ⅷ	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
13	7－2外部空間の計画手法　住宅地の外部空間／西洋・日本建築史　総括	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
14	後期授業総括(1～13回)、レポート課題発表①②	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
15	レポート課題③発表	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと　期末試験に向けて復習をする

評価方法

(1)定期試験(筆記)を実施する。※60%以上取得すること
(2)小テスト　(3)宿題・レポート提出　提出状況　など次の規準で評価する。
成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
定期試験	○	◎				80%
小テスト	○	◎				10%
宿題・レポート	○	◎				10%

履修上の注意

出席が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を認めない

科目名	建築設備				
科目名(英)	Building Facilities				
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	峯元　幹雄
実施年度	2023年度	実施時期	前期	担当者実務経験	総合メーカー建築技術担当。建材・都市開発・住宅部門に従事
対象学科・学年	建築CAD科　1年				
授業概要	建築に関する基礎的で包括的な専門知識として、また、建築環境・設備分野での技術者として必要な設備計画に関する基礎知識を修得する。				
授業形態	講義:　○	演習:　－	実習:　－	実技:　－	※　主たる形態:○　その他:△

学習目標(到達目標)

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
○	○				建築設備の役割・種類・構成を説明できる
○	○				空気調和方式の種類・特徴を説明できる
○	○				空気線図を読み解き、空調負荷について説明することができる
○	○				建築計画における省エネ手法を導き出せる
○	○				昇降機設備の種類と仕組みを理解する。

テキスト・教材 参考図書: 初学の建築講座　建築設備　第3版

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1	建築設備概要(1・1建築設備とは)	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
2	給排水衛生設備　2・1給排水衛生設備とは	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
3	2・2給水設備	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
4	2・3給湯設備	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
5	2・5排水・通気設備	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
6	2・6排水処理設備	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
7	2・7衛生器具設備　2・8消火設備	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
8	空気調和設備　3・1空気調和設備とは　3・2空気調和と室内環境	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
9	3・3空気の状態を知る　3・4空調負荷の考え方	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
10	3・5空気調和方式の種類　3・6熱源・熱搬送設備と機器部材	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
11	3・7換気・排煙設備	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
12	電気設備　4・1電気設備とは	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
13	4・2受変電・幹線設備	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
14	4・5照明・コンセント設備　4・6情報・通信設備搬送設備 5・1・1エレベーター	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
15	まとめ	本科目における学習内容を復習しておくこと

評価方法

定期試験規定にもとづき、試験(筆記)を実施する。小テスト及び宿題レポートを数回実施する。
成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
定期試験	◎	○				80%
小テスト	○	◎				10%
宿題・レポート	○	○				10%

履修上の注意: 出席が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を認めない

科目名	建築構造力学Ⅰ				
科目名(英)	Building Structural Mechanics				
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	古賀　俊光
実施年度	2023年度	実施時期	前期	担当者実務経験	設計事務所にて建築デザインに従事
対象学科・学年	建築CAD科　1年				
授業概要	形や空間を構成するには建築構造の知識が必要となります。また、天災による建物への被害が起きており、多くの人が建物の構造強度についての関心も強くなっている。建物の機能を保てる構造を作るためにも建築構造力学の知識は重要となります。この授業では、構造力学の基本となる力の考え方を身につける。				
授業形態	講義:　○	演習:　△	実習:	実技:	※　主たる形態:○　その他:△

学習目標（到達目標）

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
○	○				力の合成と分解および合力を計算することができる。
○	○				モーメントを計算することができる。
○	○				力およびモーメントのつり合い式を立てることができる。
○	○				構造物の反力を計算することができる。
○	○				構造物の応力図を書くことができる。

テキスト・教材 参考図書

学芸出版社　図説　やさしい構造力学　出版年　2017年

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1	基礎数学テスト	
2	力の合成	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
3	力の分解	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
4	力のモーメント	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
5	確認テスト(1)、荷重・力学モデル	授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと
6	力のつり合い	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
7	単純梁の反力計算(1)基本	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
8	単純梁の反力計算(2)応用	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
9	片持ち梁、張り出し梁の反力	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
10	単純ラーメンの反力	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
11	確認テスト(2)反力	授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと
12	単純梁の応力の基礎知識解説	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
13	単純梁の応力(1)基礎	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
14	単純梁の応力(2)応用	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
15	確認テスト(3)総合問題	授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと

評価方法

(1)定期試験(筆記)を実施する。 (2)提出物・出席・授業態度
以上を下記の観点・割合で評価する。
成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
定期試験	○	◎				80%
小テスト	○	◎				20%

履修上の注意

出席が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を認めない

科目名	建築一般構造Ⅰ				
科目名(英)	Introduction of Building Construction Ⅰ				
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	古賀　俊光
実施年度	2023年度	実施時期	前期	担当者実務経験	設計事務所にて建築デザインに従事
対象学科・学年	建築CAD科　1年				
授業概要	建築構造は、建物の成り立ちであり、建築物の各部と全体が、どのような材料を用いて、どのように形造られているかを学ぶ。				
授業形態	講義:　○	演習:　△	実習:	実技:	※　主たる形態:○　その他:△

学習目標（到達目標）

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
○	○				木材と木質材料について説明することが出来る。
○	○				木材の接合（仕口、継手）の名称と特徴について説明することが出来る。
○	○				木材の接合（釘、ボルト、金物）の名前と特徴について説明することが出来る。
	○				壁倍率と壁量の算出をすることが出来る。
○					木造の各部の構造について説明することが出来る。

テキスト・教材 参考図書

初学者の建築講座　建築構造　　市ヶ谷出版

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1	建築物の構成要素、構造の安定と不安定	
2	建築物に作用する外力とその伝達メカニズム	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
3	木質構造の概要	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
4	木材と木質材料	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
5	木材の接合（仕口、継手）	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
6	木材の接合（釘、ボルト、金物）	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
7	軸組（1）	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
8	軸組（2）	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
9	壁倍率と壁量	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
10	小屋組・確認テスト	授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと
11	床組	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
12	枠組壁構法	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
13	各部の構造（屋根、床、階段）	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
14	各部の構造（壁、天井、開口部）	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
15	構造Ⅰの総まとめ	授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと

評価方法

(1)定期試験（筆記）を実施する。※60点以上取得すること　(2)授業の中で小テストを3回実施する。
(3)宿題・レポートを数回実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。
成績評価基準は、S（90点以上）・A（80点以上）・B（70点以上）・C（60点以上）・D（59点以下）とする。

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
定期試験	○	◎				70%
小テスト	◎	◎				20%
宿題・レポート	○	◎				10%

履修上の注意

出席が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を認めない

科目名	建築材料				
科目名(英)	Building material				
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	古賀　俊光
実施年度	2023年度	実施時期	前期	担当者実務経験	設計事務所にて建築デザインに従事
対象学科・学年	建築CAD科　1年				
授業概要	建築材料のうち、構造材料である木材料、コンクリート材料、金属材料(鋼材)の性質について学ぶ				
授業形態	講義:　○	演習:　△	実習:	実技:	※　主たる形態:○　その他:△

学習目標(到達目標)

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
○	○				建築材料の役割、発達、分類、必要な性能、規格・基準を説明することが出来る。
○	○				樹木の種類と特徴、主用途について説明することができる。
○	○				木材の木取り方法や木理など製材に関する内容を説明することができる。
○	○				木材の含水率と変形性情、強度性情の関係について説明することが出来る。
○	○				コンクリートの硬化後の力学性状に影響を及ぼす要因について説明することが出来る。

テキスト・教材 参考図書: 初学者の建築講座　建築構造　　市ヶ谷出版

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1	建築材料とは	
2	木材の基本的な特徴(1)	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
3	木材の規範的な特徴(2)	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
4	建築用木材の性質(1)	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
5	建築用木材の性質(2)	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
6	建築用木材の性質(3)	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
7	建築用木材の性質(4)	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
8	木質材料(1)	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
9	木質材料(2)	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
10	コンクリートの発達と利用	授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと
11	コンクリートの基本的性質(1)	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
12	コンクリートの基本的性質(2)	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
13	コンクリートの基本的性質(3)	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
14	コンクリートの基本的性質(4)	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
15	総まとめ	授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと

評価方法

(1)定期試験(筆記)を実施する。※60点以上取得すること　(2)授業の中で小テストを3回実施する。
(3)宿題・レポートを数回実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。
成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
定期試験	○	◎				70%
小テスト	◎	◎				20%
宿題・レポート	○	◎				10%

履修上の注意: 出席が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を認めない

科目名	建築施工Ⅰ				
科目名(英)					
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	集路　正巳
実施年度	2023年度	実施時期	前期	担当者実務経験	総合建設会社にて、主に施工管理職として勤務
対象学科・学年	建築CAD科　1年				
授業概要	建築施工の位置づけと建築生産の基本理念を理解する。 建築工事を構成する各工種について、その内容と全体の施工計画について概要を理解する。				
授業形態	講義:　○	演習:　△	実習:	実技:	※　主たる形態:○　その他:△

学習目標(到達目標)

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目　標
○	○				建築生産の仕組みを理解し、説明できる
○	○				請負契約から工事計画、工事管理まで理解し、説明出来る
○	○				建築工事を構成する様々な工種を理解し、概要を説明できる(仮設・土・地業・鉄筋・型枠・コンクリート)

テキスト・教材参考図書　初学者の建築講座　建築施工(第三版)　市ヶ谷出版社

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1	建築生産の基本概念と着工までのあらまし建築生産(設計と施工)	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
2	施工者を選定し、工事請負契約をむすぶ	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
3	工事に着工する(着工)①	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
4	工事に着工する(着工)②	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
5	仮設・準備工事①	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
6	仮設・準備工事③	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
7	土工事・地業工事・基礎工事	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
8	小テスト①／鉄筋コンクリート工事概説	授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと
9	鉄筋工事①	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
10	鉄筋工事②	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
11	型枠工事	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
12	コンクリート工事①	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
13	コンクリート工事②	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
14	コンクリート工事③	教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
15	確認テスト②／まとめ	授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと

評価方法

(1) 定期試験(筆記)を実施する。 (2) 小テスト(筆記)を2回実施する。
以上を下記の観点・割合で評価する。
成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
定期試験	○	◎				70%
小テスト	○	◎				30%

履修上の注意　出席が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を認めない

科目名	建築法規　Ⅰ				
科目名(英)					
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	徳田　美穂子
実施年度	2023年度	実施時期	前期	担当者実務経験	設計事務所にて、公共施設、共同住宅等の意匠設計に従事
対象学科・学年	建築CAD科　1年				
授業概要	建築物の設計、施工に必要不可欠である建築基準法と関係法令について条文の主旨、内容の理解を図る				
授業形態	講義:　○	演習:	実習:	実技:	※　主たる形態:○　その他:△

学習目標(到達目標)

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
○	○				建築に関する用語の定義を始めとする基本事項を説明することができる。
○	○				建築法規の成り立ちを学び、順守すべき内容を説明することができる。
○	○				建築法規に規定する事項を学び、順守すべき事項を説明することができる。
○	○				実際の設計等を想定して、各自の判断で法令順守のプランニングができる。

テキスト・教材 参考図書

・建築関係法令集　法令編

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1	建築基準法の概要	事前連絡の該当範囲を事前に一読しておくこと。
2	条文の読み方・法令の体系	次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。
3	用語の定義①	次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。
4	用語の定義②	次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。
5	用語の定義③	次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。
6	用語の定義④	次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。
7	確認テスト(筆記試験)	次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。
8	面積の算定①	次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。
9	面積の算定②	次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。
10	高さの算定等	次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。
11	居室の採光①	次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。
12	居室の採光②	次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。
13	居室の換気	次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。
14	居室の天井高さ・床の高さ	次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。
15	確認テスト(筆記試験)	定期試験に向けた学習を徹底しておくこと。

評価方法

(1)定期試験(筆記)を実施する
(2)授業の中で小テストを実施する
成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
定期試験	○	◎				80%
確認テスト	○	◎				20%

履修上の注意

出席が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を認めない

科目名	BIM演習 Ⅰ				
科目名(英)	Building Information Modeling Ⅰ				
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	道脇　力
実施年度	2023年度	実施時期	前期	担当者実務経験	建築設計会社にて設計担当
対象学科・学年	建築CAD科　1年				
授業概要	・ARCHICADの基本的な操作の習得。 ・モデル作成、平面、立面、断面の基本図作成のワークフローの演習。 ・設計課題を通してBIMの特性を理解する。				
授業形態	講義:	演習:　○	実習:	実技:	※ 主たる形態:○　その他:△

学習目標（到達目標）

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○				覚えたコマンドを効果的に活用してモデリングを行うことができる。
	○				モデルから基本図を生成し、図面化を行うことができる。
	○				材質、レンダリングの設定を行い、パースを作成することができる。
	○				レイアウトを使ってプレゼンテーションボードを作成することができる。
	○				自身で思い描いた形、空間をARCHUCADを使って表現できる。

テキスト・教材 参考図書: ARCHICAD 22 Magic Vol. 1及びVol. 2（グラフィソフト提供トレーニングドキュメント）

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1 2	BIMの概要、モデル入力「メッシュ、柱、梁、壁」	テキストを見て予習を行うこと
3 4	モデル入力「ドア、窓、スラブ、階段、オブジェクト」	前回の復習を行うこと
5 6	モデル入力「2階、3階、屋上の作成、カーテンウォール」	前回の復習を行うこと
7 8	モデル入力「断面図、立面図、レンダリング、レイアウト」	前回の復習を行うこと
9 10	課題1:モデル再入力「1階、2階」	前回の復習を行うこと
11 12	課題1:モデル再入力「3階、屋上、レイアウト」	前回の復習を行うこと
13 14	環境モデル作成、材質設定、レンダリング設定	前回の復習を行うこと
15 16	プレゼンテーションボード作成「データ提出」	前回の復習を行うこと
17 18	ツールの応用、特殊ツールの紹介、質疑応答	前回の復習を行うこと
19 20	課題2:作成モデルのリノベーション「コンセプト」	情報、資料収集を行うこと
21 22	課題2:作成モデルのリノベーション「エスキス①」	情報、資料収集を行うこと
23 24	課題2:作成モデルのリノベーション「エスキス②」	情報、資料収集を行うこと
25 26	課題2:作成モデルのリノベーション「モデリング①」	タイムスケジュールの確認を行うこと
27 28	課題2:作成モデルのリノベーション「モデリング②」	タイムスケジュールの確認を行うこと
29 30	課題2:作成モデルのリノベーション「プレゼン資料提出」	必要提出資料の確認を行うこと

評価方法

(1)2つの課題提出・完成度・正確性・表現力を評価する。 (2)期限内に提出すること。
以上を下記の観点・割合で評価する。
成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
提出期限		○				20%
課題提出		◎				80%

履修上の注意: 出席が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を認めない

科目名	建築図学Ⅰ				
科目名(英)	ARCHITECTURAL　PERSPECTIVE Ⅰ				
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	山内　由美
実施年度	2023年度	実施時期	前期	担当者実務経験	
対象学科・学年	建築CAD科　1年				
授業概要	建築においてパースは建物の完成予想図を言うが、むしろ設計途中のイメージパースが重要である。オーナーの希望を具体化し　絵　として表現する事により、より解りやすく表現する方法である。建築における建物の外観・内観を遠近法や図法を使って完成予想図作る方法を学ばせる。				
授業形態	講義:	演習:　○	実習:	実技:	※　主たる形態:○　その他:△

学習目標（到達目標）

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○				建築パースの役割と意義を説明できる。
	○				1消点(グリッド法)図法を使ってパースを描ける
	○				2消点(グリッド法)図法を使ってパースを描ける
	○				図面を使って室内のフリーハンドイメージパースを描ける
	○				内観パースに着色し、カラーパースとして完成させる。

テキスト・教材 参考図書

超かんたん　パースの描き方

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1	概要説明　建築パースの重要性・必要性	
2	内観1消点法・基本・変形	課題は次の授業までに終わらせておくこと
3	斜め家具の配置	課題は次の授業までに終わらせておくこと
4	ベッドルームの作成　1消点図法	課題は次の授業までに終わらせておくこと
5	和室のパース作成　　1消点図法	課題は次の授業までに終わらせておくこと
6	リビングルームの作成　①　1消点図法	課題は次の授業までに終わらせておくこと
7	リビングルームの作成　②　2消点図法	課題は次の授業までに終わらせておくこと
8	リビングルームの作成　③　2消点図法	課題は次の授業までに終わらせておくこと
9	浴室　フリーハンドパースの作成	課題は次の授業までに終わらせておくこと
10	洗面室　フリーハンドパースの作図	課題は次の授業までに終わらせておくこと
11	キッチン①　フリーハンドパースの作成	課題は次の授業までに終わらせておくこと
12	キッチン②　フリーハンドパースの作成	課題は次の授業までに終わらせておくこと
13	ショップ①　フリーハンドパースの作成	課題は次の授業までに終わらせておくこと
14	ショップ②　図法・フリーハンドパースの作成	課題は次の授業までに終わらせておくこと
15	着色	授業最終日に指定する締切日に全作品を提出

評価方法

(1)複数の課題提出を行う。(2)課題の完成度・正確性・丁寧さを評価する。 (3)期限内に提出すること。
以上を下記の観点・割合で評価する。
成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
課題提出		○				20%
課題作品		○				50%
期限内での提出		○				30%

履修上の注意

出席が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を認めない

科目名	CG演習Ⅰ				
科目名(英)	Computer Graphics Exercisesr Ⅰ				
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	八尋　誠
実施年度	2023年度	実施時期	前期	担当者実務経験	Web制作会社にてデザイン制作を担当
対象学科・学年	建築CAD科　1年				
授業概要	Photoshopの基本操作と、業界における重点を学ぶ それら基礎知識の浸透が目的				
授業形態	講義:　△	演習:　○	実習:	実技:	※　主たる形態:○　その他:△

学習目標（到達目標）

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
○	○				Photoshopの機能を説明することができる
○	○				Photoshopによる画像補正　修正処理ができる
○	○				画像の切り抜くことができる
○	○				Illustratorとの連携を意識した処理ができる

テキスト・教材 参考図書: なし

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1	導入授業　Photoshopで合成してみる	Photoshopをインストールしておくこと
2	Photoshop　建築物の写真を切り抜いて空と樹木を合成	Photoshopのツールを予習しておくこと
3	Illustrator　ベジェ曲線　ツール編	Illustratorをインストールしておくこと
4	Illustrator　ベジェ曲線　実践編	ペンツールの使い方を復習しておくこと
5	Illustrator　写真をペーンツールで切り抜きレイアウト	複合パス・トリミングなどの使い方を復習しておくこと
6	Photoshop　建築物の写真をペンツールで切り抜き合成	ツールの使い方を復習しておくこと
7	Illustrator　基本図形　パスファインダ	Illustratorの使い方を復習しておくこと
8	Illustrator　基本図形でインテリアのイラストを描く　スウォッチ・カラーの使い方	ツールの使い方を復習しておくこと
9	Illustrator　基本図形でインテリアのイラストを描く　パターン・グラデーションの使い方	ツールの使い方を復習しておくこと
10	Illustrator　いろんな線を描く	ツールの使い方を復習しておくこと
11	Illustrator　間取り図を描く	ツールの使い方を復習しておくこと
12	Photoshop　インテリアの線画をペイント　ブラシツール等	Photoshopの使い方を復習しておくこと
13	Photoshop　インテリアの線画をペイント　焼き込みツール等	ツールの使い方を復習しておくこと
14	Illustrator　CAD平面図をペイント　DXFファイルの開き方	ツールの使い方を復習しておくこと
15	Illustrator　CAD平面図をペイント　フィルタ関連	ツールの使い方を復習しておくこと

評価方法

練習問題を小テストととして評価　3種実施、その提出・内容により評価

成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
課題提出	◎	○				100%

履修上の注意: 出席が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を認めない

科目名	GCB Ⅰ				
科目名(英)	Global　Citizen　Basic　Ⅰ				
単位数	1単位	時間数	15時間	担当者	各クラス担任
実施年度	2023年度	実施時期	前期	担当者実務経験	
対象学科・学年	建築CAD科　1年				
授業概要	社会人基礎力と志(使命感)、感謝や思いやり等(基本的な人間力)の要素をコンピテンシーと定め、GCBの中で学びます。GCB Ⅰ では、組織の中で生きていくうえで重要なマナーと協力(協働)、「感謝と思いやり」について学びます。				
授業形態	講義:　○	演習:	実習:	実技:	※　主たる形態:○　その他:△

学習目標(到達目標)

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
○	○				キャリア実現の鍵は専門能力および発揮できる力(人間力)であることを知る
○	○				「感謝心」が人間力の根底にあることを知る
○	○				人間力を高めるためのマナーの重要性に気づく

テキスト・教材 参考図書: グローパルシティズンベーシックⅠ　テキスト

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1	グローバルシティズンを目指そう　グローバルシティズンとは	テキストを熟読しておく
2	「協働」の態度を持った学生生活　「働く」ことの幸せとは	テキストを熟読しておく
3	より良い人間関係の構築に向けて　モラル・ルール・マナーの重要性	テキストを熟読しておく
4	マナーの本質Ⅰ　思いやり・気配りのカタチ	テキストを熟読しておく
5	マナーの本質Ⅱ　相手に敬意を表する・思いを伝える"あいさつ"	テキストを熟読しておく
6	グローバル・シティズンとしての日常	テキストを熟読しておく
7	グローバル・シティズンとしての目標	テキストを熟読しておく
8	グローバル・シティズンとしての「志」に向けて	テキストを熟読しておく
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

評価方法

(1)課題の提出　以上の内容にて判断し　R評価(可、不可)で判断する。

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
課題の提出	○	○				100%

履修上の注意: 出席が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を認めない

科目名	就職実務Ⅰ				
科目名(英)					
単位数	1単位	時間数	15時間	担当者	各クラス担任
実施年度	2023年度	実施時期	前期	担当者実務経験	
対象学科・学年	建築CAD科　・　インテリアデザイン科　・　建築学科(昼)　1年				
授業概要	就職活動に必要な基礎知識を備えた人材の育成 具体的には、就職活動における基礎的な振る舞いを身に着け、習慣化する				
授業形態	講義:　○	演習:	実習:	実技:	※　主たる形態:○　その他:△

学習目標(到達目標)

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
○					就職活動に必要な自己分析を行うことができる
○					基本的な面接対応ができる
	○				メール対応など、就職活動に必要なコミュニケーション知識がある
○	○				企業研究の方法を知っている
	○				学校求人を利用するための条件を知っている

テキスト・教材 参考図書

学校支給のGCBテキスト　就職活動ガイドブック

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1	就職活動における心構え　/ 働くということを考える　知る	
2	就職活動における心構え　/ 自分が働く業界の形態や常識を知る	
3	就職活動における心構え　/ 作品集の価値とは	
4	就職活動における心構え　/ 作品集をイメージする	
5	就職活動における心構え　/ 自分の作品集計画を見つめ直す	
6	履歴書　/ 自己分析　自己PR	
7	履歴書　/ 自己分析を履歴書としてまとめる	
8	面接練習　/ 面接の重要性　意味を知る	
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

評価方法

(1)課題の提出　以上の内容にて判断し　R評価(可、不可)で判断する。

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
課題の提出	○	○				100%

履修上の注意

出席が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を認めない

科目名	BIM 専攻ＩＡ(選択)				
科目名(英)	Building Information Modeling ＩＡ				
単位数	1単位	時間数	15時間	担当者	道脇　力
実施年度	2023年度	実施時期	前期	担当者実務経験	
対象学科・学年	建築工学科 ・ 建築CAD科 ・ インテリアデザイン科 ・ 建築学科(昼) 1年				
授業概要	・ARCHICADの基本的な操作の習得。 ・モデル作成、平面、立面、断面の基本図作成のワークフローの演習。				
授業形態	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△

学習目標(到達目標)

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○				覚えたコマンドを効果的に活用してモデリングを行うことができる。
	○				モデルから基本図を生成し、図面化を行うことができる。
	○				材質、レンダリングの設定を行い、パースを作成することができる。

テキスト・教材 参考図書: ARCHICAD 22 Magic Vol. 1及びVol. 2(グラフィソフト提供トレーニングドキュメント)

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1	BIMの概要、モデル入力「メッシュ、柱、梁、壁」	テキストを見て予習を行うこと
2	モデル入力「ドア、窓、スラブ、階段、オブジェクト」	前回の復習を行うこと
3	モデル入力「2階、3階、屋上の作成、カーテンウォール」	前回の復習を行うこと
4	モデル入力「断面図、立面図、レンダリング、レイアウト」	前回の復習を行うこと
5	課題1:モデル再入力「1階、2階」	前回の復習を行うこと
6	課題1:モデル再入力「3階、屋上、レイアウト」	前回の復習を行うこと
7	環境モデル作成、材質設定、レンダリング設定	前回の復習を行うこと
8	プレゼンテーションボード作成「データ提出」	前回の復習を行うこと
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

評価方法

(1)受講態度・意欲 (2)課題の提出 以上の内容を総合的に判断し R評価(可、不可)で判断する。

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
発表・作品		◎				50%
課題提出		◎				50%

履修上の注意: 出席が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を認めない

科目名	数学ゼミＩＡ				
科目名(英)					
単位数	1単位	時間数	15時間	担当者	吉田　麻美
実施年度	2023年度	実施時期	前期	担当者実務経験	
対象学科・学年	建築工学科　・　建築CAD科　・　インテリアデザイン科　1年				
授業概要	建築の各学科において必要とされる、基礎的な数学スキルの復習と習熟を目指す				
授業形態	講義:　○	演習:	実習:	実技:	※　主たる形態:○　その他:△

学習目標（到達目標）

言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
○	○				正の数と負の数が含まれた基本的な数式問題が解ける
○	○				1次方程式の基本問題が解ける
○	○				比例と反比例の基本問題が解ける
○	○				図形に関する基本問題が解ける

テキスト・教材 参考図書

オリジナル演習プリント

授業計画

回数	授業項目・内容	授業外学修指示
1	【演習問題】 正の数と負の数、いろいろな計算（四則計算）	解答出来なかった問題は必ず復習・解答の上再提出すること。また、理解できなかった問題は質問事項を記入して担当教員に提出すること。
2	【演習問題】 文字式の計算　1次方程式	
3	【演習問題】 文字式の計算　1次方程式　1次方程式の利用	
4	【演習問題】 比例と反比例	
5	【演習問題】 比例と反比例　比例と反比例の利用	
6	【演習問題】 平面図形	
7	【演習問題】 空間図形	
8	【演習問題】 総合演習　まとめ	

評価方法

（1）課題の提出　以上の内容にて判断し　R評価（可、不可）で判断する。

	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
課題の提出	○	○				100%

履修上の注意

出席が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を認めない